

2月7日と14日にゼミごとの口頭発表会が行われました。今回の発表を基にゼミ内で代表が選出され、若林区文化センターでの全校生徒への発表に臨みます。先日行われたポスター発表会でのアドバイスを活かし、それぞれが発表の質を向上させて発表を行ったのではないのでしょうか。発表を見学した1年生も来年行う研究の参考になったと思います。今回はそれぞれのゼミの様子についてお伝えします。

物理ゼミ

ポスター発表会の時よりも実験を重ね、より実用的な成果を上げていた班も数多くあった。発表の際に、多くの班が、聴衆である71回生に対して同じ研究を続けてほしいと述べていた。71回生の数人は積極的に質問をしており、来年の物理ゼミに期待が持てるのではないだろうか。

化学ゼミ

前回の発表会では、化学的に曖昧な部分があり、数値ではなく視覚で捉えていた班もあったが、今回は論理的で、しっかり「化学」している印象だった。

先生方からも、大いに進歩が見られたと、お褒めの言葉を頂戴したので、今後は後輩への引き継ぎに尽力したいと思う。

生物ゼミ

和気藹々且つ真剣な発表会であった。

前回の発表会をふまえ、実験を増やし、データを揃え、聴衆への問いかけや見やすいスライドの工夫など、研究をわかりやすく伝えようとしていた。1年生からも本質を突く質問が出て、活発に質疑応答が行われ、理解が深まったと思う。

地学ゼミ

2/7に行われた発表会では地学科教員が普段より気合が入っていたのか、厳しく愛のある質問が多くあり、発表者は皆、返答に苦しんでいた。

2/14での発表会はより質問量が増え、活気あふれるものであった。質問への対処の仕方は、各班で実力差が露呈するものであった。

国語ゼミ

発表者と聴衆のどちらも理解が深まる有意義な時間であった。先生方からは「国語的な研究は研究者の主観が入ってしまいやすいため、研究途中の段階から他者に意見を仰ぐとよい」とアドバイスを頂いた。

1年間の研究の締めくくりに相応しい口頭発表会になったのではないだろうか。

情報ゼミ

今回の発表会では、ナンプレや作曲など様々な題材があったが、その中でも特に印象に残ったのは「学術研究の指針」を示した発表だ。これは「情報」ゼミという枠組みに囚われない素晴らしいものであった。

公民ゼミ

大人数での発表となったが、発表者・聴衆共に適度な緊張感を持ちよい雰囲気だった。

「回を重ねるごとに内容が深まっていて素晴らしい」や「スライドも見やすいものが多かった」などの講評をいただいた。



地歴ゼミ

これまでの集大成となる発表会だったが、それぞれうまくまとめられていた。個性的な発表に対し笑いが起こるなど、非常によい雰囲気で終始進めることができた。

今回の発表の内容には一年生も関心を持って参加しているようであった。来年以降もよりよい研究ができるように、今回の発表会を活かしてがんばってほしい。

数学ゼミ

今回の発表会の聴衆は1年生であったため、2年生以降で学ぶ範囲の研究を行っている生徒は、彼らにも分かりやすく説明するのが大変そうであった。また、小難しい説明が延々と行われることは無く、一高生らしい発表会になったと思う。

英語ゼミ

前回の発表では、「原稿を見過ぎている」や「スムーズに発表ができていない」と指摘されたが、聞き手に伝えたいという感じの伝わる発表になり、成長が見られた。また質問の質も向上し、英語の発表を正確に聞き取り、疑問点を変換して話すという作業も上達していた。

保体ゼミ

各班ポスター発表会の反省を活かした発表をしており、深く切り込んだ質問に対しても堂々と相手が納得できるような回答をしていた。1年生からの率直な質問が少なかったのは残念だったが、発表者の気がつかなかった部分に対しての鋭い視点の質問も見られたのでよかったと思う。

音楽ゼミ

今回も家庭科ゼミと合同で行った。堅苦しい雰囲気は無く、終始明るい雰囲気のもとで活発な意見交換や質疑応答が行われた。

家庭ゼミ

良かった点は、発表会当日に欠員が出て埋め合わせが出来た点である。また、改善点は、発表までの練習期間が短かく、班員同士で内容を確認出来なかった点である。スライドもより洗練されたものにすべく、載せる内容選びに特に気を配りたい。



編集後記

まずは謝罪しなければならない。発行が遅れてしまい、申し訳ありませんでした。

今号は口頭発表会についてつらつらと書き連ねてみた。報告書によると、皆ポスター発表会で指摘された点を改善し、より良い発表へと仕上げてきたようだ。71回生の良い手本となったことだろう。だが、やつらはまだこの「学術研究」の恐ろしさを知らない…それを知ったときの顔が非常に楽しみであることは言うまでもない。